



第34号

発行 東京清陵会(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=両角寛文 編集=90回生(昭和59年入学)&事務局 <http://www.tokyoseiryokai.jp>
事務局 TEL 080-3939-0266 mail tokyoseiryokai2017@gmail.com DTP=スタジオパラム

世界はいつでも激動している

—清陵生は何を求めて生きているのか—

今年度55歳になる当番幹事の90回生が諏訪清陵高校を卒業したのは1987年3月。それからの36年間には国鉄民営化、ブラックマンデー、昭和天皇崩御、東西冷戦終了とソ連の解体、湾岸戦争、バブル経済崩壊、自民党下野と社会党との連立で政権復帰、阪神淡路大震災、オウム真理教地下鉄サリン事件、長野オリンピック、21世紀スタート、米国同時多発テロ、アフガン戦争、小泉首相電撃訪朝、イラク戦争、リーマンショック、新型インフルエンザパンデミック、民主党政権樹立、東日本大震災+福島原発事故、自民党政権再復活、中国の台頭、御岳山噴火、令和改元、COVID-19パンデミック、東京

オリンピック、安倍元首相暗殺、ロシアのウクライナ侵略、少子高齢化急速進行と実に様々な出来事があった。

日本が戦争当事国になることはなかったが、激動の時代といってよい。そんな時代を私たちは何を求めて生きてきたのか。人生においてそれまでの自分を振り返り、何のために生きているか問い直す時期があると思う。清陵OB、OGにとっては当番幹事はその時期のひとつだろう。

今年90回生が選んだテーマは「well-being 幸せの追求のためにやってきたこと」である。ここでいう幸せとは「高収入を得る」「良い家に住み、うまいものを食べる」といった物質的な幸福のみを

指すものでなく精神的幸福、自分だけでなく家族や周囲にいる人々、社会全体の幸福を指すものである。

12年前の東日本大震災、3年前から今も続くCOVID-19パンデミック(奇しくも本記事執筆中の5月5日、WHOがCOVID-19をめぐる緊急事態宣言の終了を発表した)は、我々に連帯と分断という真逆の人間関係を求めてきた。同調圧力により自分で考え判断することを忘れかけてはいないだろうか。

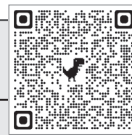
今、そしてこれから自分がなすべきことは何なのか、今こそ「自反而縮雖千萬人吾往矣」精神の発揮しどころだと考えている。

well-being 幸せの追求のためにやってきたこと

2023年度

東京清陵会定期総会のご案内

総会および記念講演会は会場+Zoomによるハイブリッド開催を予定



お申し込みはこちらから

■日時=2023年10月1日(日) 13:00(12:00時受付開始)

- ・総会=13:00~13:30
- ・記念講演会=13:40~14:40
- 演題「研究航海800日:地球の営みを解き明かす知的探求の旅」
- 講師 池原 実氏(90回生 高知大学 海洋コア国際研究所 教授)
- ・懇親会=15:00~16:30

■開催場所(ハイブリッド)

- 会場:アルカディア市ヶ谷(私学会館) 3階「富士の間」
- 東京都千代田区九段北4-2-25 ☎03-6685-0541
- ※市ヶ谷駅(JR、東京メトロ、都営線)下車、徒歩2分
- ※オンライン=Zoomでの配信を予定

■会費懇親会参加費:8,000円

- (108回生から119回生6,000円、120回生以降2,000円)
- ※オンライン参加は無料

■申込方法

- 右上のQRコードの「参加登録フォーム」にて、参加登録をお願いします(会場、オンラインとも)。
- 参加登録締め切り日時:2023年9月24日(日曜日) 23:59
- ※会場参加希望の方は、会場準備の都合上、必ず参加登録をお願いします。事前登録のない方の会場参加はご遠慮いただく可能性があります。
- ※なお、会場参加希望で、ネット環境のない場合は、同封ハガキにて返信ください。2023年9月22日(金曜日)必着。
- ※オンライン参加の方には、9月27日(水曜日)にZoom参加IDを登録メールアドレスに配信する予定です。
- 問い合わせ先=90seiryu34kai@gmail.com
- 当番幹事90回生 次年度幹事91回生
- サブ幹事95・100・110・120回生 学生幹事124回生

●会場開催についてはCOVID-19などの感染状況により変更が生じる可能性があります。開催の有無、形態は必ず東京清陵会のホームページで確認の上、体調、ご家族や職場の意向など各自で判断して参加いただきますようお願いいたします。

座談会

リアル55歳

Real 55 years old

— 当番幹事たちの現在、過去、未来 —

清陵卒業後、しばらくは連絡を取り合っていた同期生たちも大学での進級、就職、結婚などを経て徐々に疎遠になってしまいます。同窓会当番幹事は、旧友と再会するチャンスです。今回はそんな再会をした90回生8人が集まり、座談会形式で現在、過去、未来について語り合いました。(2023年4月16日 京橋の貸会議室にて開催)

司会：久しぶりの再会です。近況報告など自己紹介をお願いします。

小平：7部、テニス部でした。大学を出てゼネコンに勤め、何回か転職を重ねましたが、またゼネコンに戻り、飯田橋で働いています。

王子田：7部、サッカー部でした。大学卒業後は銀行に就職して、今も勤めています。転勤が多く10店目の柏支店にいます。広島、仙台、名古屋、大阪の支店勤務を経験しました。

藤森：5部、野球部でした。大学卒業後は建築設計事務所に勤め、その後独立して約25年、主に住宅設計をやっていきます。実家が工務店で、そちらと協力しながら仕事することもあります。

桑澤：4部、地歴部人文班とテニス部を掛け持ちでした。大学卒業後に損害保険会社に就職しました。転勤が多く、東京から三島、堺、小倉、石巻などに行き、今は武蔵小杉に勤務しています。

長野：1部、無線部と軽音部でした。

大学卒業後は医療機器メーカーに就職、超音波診断装置の設計をやっていきます。

萩原：旧姓都丸です。7部で、テニス部と写真部に所属していました。写真部には同窓会でよく名前が出てくるデザイナーのKさんや声楽家のHさんがいました。

岡島：旧姓松田です。1部、吹奏楽部でした。大学卒業後は化粧品会社に就職しましたが、6年ほど勤めて独立し、今はマーケティングや販促企画の仕事をしています。

古村：2部、天文気象部でした。内科医です。4つの病院に勤めた後に開業し、今は9年目です。

司会：座談会のテーマは「リアル55歳」です。自分はどんな清陵生でしたか？当時の自分に伝えられるとしたらどんな言葉をかけますか？

古村：とにかく勉強しませんでした。清陵に入ったからもう大丈夫と、羽を伸ばしすぎてしまった。浪人すれば大

学に行けるだろうと。当時の自分に言いたいのは、「勉強しろ」です。

長野：僕は逆に、羽を伸ばしてよかったと思っています。いまの自分があるのはあの時羽を伸ばした清陵生だからだと思っています。

王子田：高1の1学期に赤点を取り、補講を受けたことを覚えています。ずっとサッカーをやっていて3年のインターハイ県予選で負けた後は、小平と背伸びした(!?) 遊びをしていました。もっと勉強すれば違った人生があったかもしれませんが、無駄だったとは思っていません。年齢を重ねるとしがらみが増えて選択肢が少なくなるので、今清陵生には自由な時間を楽しんで欲しいと思います。

小平：真剣にテニスをやっていて大学でも続けました。ゼネコンは古い業界で「学歴は関係ない」と言いつつ大学名がついて回ります。清陵では良い時間を過ごし、良い友達もたくさんいて楽しかったのですがもうちょっと勉強を頑張っておけばよかった。

古村：小平さんは「真面目で硬い」というイメージなので羽を伸ばし過ぎて遊んだと聞くとすごく意外な感じ。

小平：高3の時はまともに授業に出ず、喫茶店に行っていました。

長野：清陵生が集う喫茶店があったよね。

桑澤：ブロック崩しとか。

王子田：テトリスやったね。みんな出



出席者

王子田卓也	(諏訪市出身)	東京都在住	銀行勤務)
岡島祐子	(富士見町出身)	東京都在住	マーケティング会社代表)
桑澤高	(岡谷市出身)	神奈川県在住	損害保険会社勤務 (健康経営アドバイザー)
小平賢司	(諏訪市出身)	埼玉県在住	ゼネコン勤務)
長野玄	(諏訪市出身)	栃木県在住	医療機器メーカー勤務 研究開発部門)
萩原正美	(諏訪市出身)	東京都在住	子育てで一段落し次のステップを模索中)
藤森伝一	(茅野市出身)	東京都在住	設計事務所主宰 一級建築士)
古村雅利(司会)	(辰野町出身)	千葉県在住	内科医)

席簿に名前を書いたら学校を抜け出して喫茶店。

萩原：休んだら紙に理由を書いて提出しないといけなかったよね。勉強は誰よりもしていなかったと思います。清陵に入っただけで安心してしまい、「入れてくれただけで、もういいです」という感じで楽しんでました。遊びがあったから、今余裕を持った考え方や行動ができると思います。いろいろなことを経験できたのがよかったと思います。自分の子供を塾に通わせて初めて「あんなに勉強しないといけないものだったんだ」と知り、今更ながら反省しました。

藤森：野球部での成績は僕が一番よくなかった。あの頃特有の悩みもあって。実家の家業とか、父親の具合とかばかり気になっていました。諦め感が出てきて勉強が身に付かない。清陵ではビジョンが確立し、努力している友人がいました。反省した僕は彼らの姿を思い浮かべながら大学生活を過ごしました。高校時代の自分には「とにかく諦めるな」と言いたいです。

岡島：私は吹奏楽部で、朝も放課後も休みの日もずっと楽器を吹いていて、清陵時代の思い出＝楽器演奏です。同窓会活動に参加すると知り合いが少なく、「こういうことあったよね」という話もあまり知らず、当時は狭い世界で生きていたのだと痛感しました。当時の自分に声をかけるとしたら「もっと視野を広げている人々とコミュニケーションをとった方がいいよ」と言いたいです。

桑澤：地歴部人文班に入ったのが全ての始まり。本当に勉強した記憶は全くありません。いろいろなことを経験して、世の中何とかなるとナメていたところがあります。当時の自分には、世の中厳しいことを意識して生きるように言いたい。でも、広く交友できたのはよかったです。

司会：清陵卒業後、清陵OB・OGとの交流がありましたか？ それは生活の中でどのような位置付けになりますか？

桑澤：一度大学構内で岡島さんと会いましたよね。2つ上の先輩に声をかけ

られ、同じサークルに入っていました。

長野：大学は関西でしたが、2つ上の先輩が毎年清陵コンパをやっていました。大学近くの四つ角で「民」をやったこともあります。関西は清陵OBが狭い地域にまとまって住んでいて、よく集まっていました。大学時代の清陵OBとのつながりは今も続いています。

藤森：野球部はOB戦など20～30代の頃はつながりがありました。偶然「特急あずさ」の中で野球部関係者と再会し、その方の実家を修繕するという仕事につながりました。同期生の家を見て替える仕事もやりました。

王子田：サッカー部もOB戦がありました。ユニフォームを作って、多摩川でやりました。銀行員なので人と会うことが多く、お客さんに旧制諏訪中出身の方がいて盛り上がりました。行内に後輩がいて同じ店舗に勤務したこともあります。

桑澤：僕も仕事であちこち行くので清陵OBと会うことがあります。

司会：清陵卒業生の進路は幅広いので、いろいろなところで同窓生と会えるのかもしれないね。

司会：「清陵OB・OGだなあ」とか「諏訪人だなあ」と思う行動や思考がありますか？

王子田：親も東京にいて諏訪に実家がないのですが、諏訪のことは気にしますね。御神渡りができるかとか、今年は御柱だとか、そういうところは諏訪人だなあと思います。

長野：父が転勤族で転居が多かったのですが、出身地を聞かれたら「諏訪」と答えます。

桑澤：「理屈っぽい」とよく嫁から言われます。酔っぱらうと理屈っぽくなるようです。

藤森：設計した住宅を10年後に訪問した際、「藤森さんがこの窓をどうしてもつけたいと『主張した』』と言われまして。提案したつもりだったのに「主張」と受け止められてしまった。結果的に正解だったと言われたのですが相手を理屈で追い詰めてしまうところがあるようです。

岡島：清陵は男女の区別が少なかった

ように思います。名簿の順番が男女で混ざっていると、マラソン大会で同じ距離を走るというのは他の学校ではあまりないようで友人に驚かれます。女性だからという理由で不当な扱いを受けたり、逆に優遇されたりすると、居心地悪く感じます。

萩原：上諏訪中学は清陵と似た気質があったので、違和感を覚えずに中学・高校の6年間を過ごしてしまいました。なので、世間を知らなすぎるところがあるかもしれません。

古村：高3の体育は男女混合だったね。1学期はバレーボール、2学期はマラソン、3学期はバスケット、3種目しかなかった。女子が家庭科をやっている時間に男子は柔道をやっていました。

長野：体育の出席が足りないと、最後3月にマラソンで帳尻を合わせる感じだったよね。

萩原：家庭科ありましたね！ スカートを作りました。

藤森：当時は女子しか家庭科の授業がなかった。今は男性にも必要です。僕は子供のお弁当作るのが楽しくて写真も撮っています。これまでのお弁当の写真が500枚ほどあります。

司会：就職、転職、海外勤務など人生の転機と感じた出来事がありますか？ やりがいや幸せを感じるのとはどんなことですか？

藤森：建築設計は現場に行かないと仕事にならないですし、人間関係の広さも必要です。つまり地元力ですね。最近になり地元と関わるような仕事が続きました。転機は今、これからです。「まだ55歳」という気持ちでこれから地元貢献できるという思いがあります。

小平：数回転職しました。最初の会社でも、次の会社でも早期希望退職。最初の会社から戻ってほしいと声をかけられ勤めています。人との繋がりで自分があると思っています。家族にもだいたい迷惑をかけましたが、何とかやってこれてよかったかなという感じです。

古村：当時の仕事が評価されていたから呼び戻されたということですね。やはり、力を抜いて仕事してはいけないということですね。

萩原：私も藤森さん同様、今が転機かなと思います。子供が就職したので、自分の人生を歩まなければと思っていきます。こうして皆さんと会い、刺激を受け、自分は何をやったらいいのかなど、考えている最中です。時間もたっぷりあるし、これから見つけていこうと思います。

岡島：私は独立するぞ！ みたいな気持ちではなく、前職で化粧品のマーケティング企画をやっていた中で、別の業界の仕事もしてみたいという軽い気持ちで始めたところ、予想外に続ける感じです。人との繋がりでやってこられたので、できるだけこの仕事を続けていきたいです。

王子田：仕事もプライベートも充実しており幸せです。60歳が役職定年で次の転勤が最後の職場でその次はセカンドキャリアと思うと、どうなるのかな、何をしようかな、と考えます。

桑澤：うちは55歳が役職定年で、60歳が定年。65歳まではパートのような形で会社にいられます。退職金が倍になるという早期退職の募集があり迷いましたが下の子がまだ高校1年なので踏みとどまりました。役職定年後でも単身赴任があるので今後どうするか考えなければと思っています。

司会：退職後の話題になってきましたが、何か準備をはじめていますか？

長野：考えなくてはいけないと思ってはいますが。うちも60歳が定年で65歳まで働けますが、60歳以降は処遇が変わります。

王子田：今後どうなるかは何となくわかりますが準備できていません。少し先なのかなという気もします。働きたい、社会と関りたいと思っていてキャリアを生かすため次に何をすればよいか、65歳まで会社に残るのか、外に行くほうがいいのかを今考えているところです。

藤森：働き続けたい気持ちはありますよね。自営業なので健康なうちはずっと仕事を続けたい。「55歳が役職定年」という話を聞いて、まだできるのと思いました。

桑澤：おっしゃる通り。気持ちは「若者には負けないぞ」と思うのが体力的に

厳しいことも。

藤森：確かに。「このひと晩で何とか」という時に、無理がきかなくなっています。

長野：夜7時から実験するのはもうやめようとか。

桑澤：だんだん老眼で目が見えないしね。

長野：幸い、健康診断は何も引っかかっていないです。

桑澤：自分自身の生活もさることながら、親の介護問題が出てくると思います。父が介護施設に入りまして。実家や父の荷物をどう整理するかなど、考えることが増えそうです。

司会：子育てに親の介護、社会の縮図ですね。何か経験がある方はいますか？

親と離れて暮らしていると介護問題は気になりますよね。我々の親世代は70代後半から80代だと思しますので。今の世の中であれば施設にお願いするというのも選択肢のひとつだと思います。

藤森：昔と違い訪問診療や介護を受けられる時代です。自分の場合は実家の近くに弟家族、妹家族がいるので母の面倒を見てくれる安心感があります。

古村：以前は40～50代が60～70代を介護していましたが、今は60～70代が80～90代を介護する時代です。できることとできないことを分けていかないと双方潰れてしまう。訪問診療や訪問介護、デイサービスなど高齢社会に対応したサービスがあるので、調べておくのは大事です。

藤森：介護を意識した住宅設計が必要な時代になっていると思います。訪問入浴ではベッド脇にお風呂セットを設置して入浴します。そのような状況を踏まえた住宅設計が求められています。

司会：今後同窓会に期待することや、同窓会参加者を増やすための提案があれば教えてください。

長野：2～4学年上の人たちがOB会をやってくれたのがありがたかった。同年代の人がいると参加しやすいと思います。

藤森：誰が参加しているかわかるよう情報発信をするとよいのではないのでしょうか。

王子田：妻に「美味しいものでも食べ

られたらいいんじゃない？」と言われました。美食や変わった建物に入れるとか、催し物的なことがあると集まりやすいと思います。

古村：そうですね。勉強会や模擬講義は清陵らしいですがちょっと硬いですね。硬軟混ぜるのがよいかもしれません。

長野：学生時代だと、盆と正月に帰省するとみんながいるというイメージでしたが、今はそうもいかないので集まる機会を作るといいかもしれません。

王子田：55歳を迎えてみんなどうしているんだろうという気持ちもあって今日は参加しました。それぞれ違う分野で活躍しているので自分も金融だけではなく世界を広げられたらと思います。

小平：王子田さんに誘われたのと桑澤さんの名前もあったので出席しました。

桑澤：そう僕も王子田さんともみんなとも全然会っていませんでした。うちの大学は卒業25年に大同窓会があり名簿を集めたり声をかけたりするので、そういうイベントがあるといいかもしれません。同窓会に行ってみると懐かしく、連絡をとってみようとか広がっていくので。

司会：現在、90回生名簿の再構築を進めています。メーリングリストやFacebookも開設しました。当番幹事をきっかけに情報交換や単純に友達付き合いを復活してもらえたらいいと思います。あの頃と違う付き合い方ができると思います。今日は忙しいところお集まりいただきありがとうございました。

——30数年ぶりに再会したにもかかわらず、皆さん積極的に発言されて清陵生らしさを発揮していました。清陵祭やクラスマッチ、部活動、同期生たちの消息、会報記事として取り上げることができないやんちゃな思い出など、予定の2時間はあっという間に過ぎてしまい、食事会場に移動後はアルコールの勢いもあり当時の思い出話は延々と続いたのでした。座談会として一定の結論にまとめることはできませんでしたが、本当に久しぶりに集まることできて以前とは違うお付き合いを始めることができるきっかけにはなりそうです。

特別
寄稿

ウクライナ戦争と 分断する世界 1984年～2023年

矢島敦視

(90回生 上諏訪中 日本放送協会(NHK)チーフリード)



まさか自分たちが生きている時代にこんなことが起きるのか……。2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻。私たちに戦争の脅威を突きつけているだけでなく、世界が先の大戦の反省から構築してきたさまざまな仕組みや価値観を大きく揺さぶっている。

民主主義、安全保障、核、グローバル経済……。私が清陵に入学したのはバブル前の1984年。日本が自信に満ちていた時代だった。先生からは受験勉強とは全く異なる「社会で生きていくための教養」を教えてもらい(背伸びしながら必死に吸収しようとしていた……)、友人たちとは政治のあり方や世界における日本の役割などを青臭く、熱く議論し、盆地の諏訪から世界に視線を広げていた。

私はNHKで30年以上、NHKスペシャルやクローズアップ現代などを制作してきたが、その根底には清陵時代に社会問題や世界への関心を高めた日々があった。ウクライナ戦争をきっかけに世界で何が起きているのか。2022年7月から放送している「混沌の世紀」シリーズで描いてきたテーマの一端をもとに同窓生の皆さんと共有したいと思う。

今回の軍事侵攻は、その前から世界の底流にあった様々なゆがみを一気に露わにした側面がある。

そのひとつが「民主主義への不信」だ。ロシアのプーチン大統領は民主主義を徹底的に抑え込んでいるが、実は世界のほかの国々や地域でもひたひたと権威主義的な動きが強まってきていた。スウェーデンの研究機関によれば世界の国と地域の中で「自由で民主的」だとされたのは60。それに対して「非民主的」だとされたのは100を超えている。

2010年に日本を抜いてGDP世界第2位となった中国。今やアメリカと並ぶ大

国になり東南アジアやアフリカなどで存在感を強めているが、EUの中でもハンガリーのように欧米型の民主主義に背を向ける国が現れている。

かつてアメリカの政治学者フランシス・フクヤマは、歴史上続いてきたイデオロギー闘争は自由民主主義の勝利によって終わる(=歴史の終わり)としたが(1992年)、アメリカのオバマ元大統領はウクライナ侵攻後、「かつて世界は必然的に民主的になっていくと思われたが、今や必然でもおのずと実現するものでもない」と危機感を語った。

こうした背景には、「民主主義が広がってもそれで豊かになれるわけではない」という経済的な不満や、安保理決議を経ずに行われたNATO軍によるユーゴ空爆(1999年)やイラク戦争をめぐるアメリカの対応(2003年～)などに対し世界の人々が不満を強めてきたことなどがある。多くの識者が今後、中国が率いる権威主義的な陣営とアメリカが率いる民主主義的な陣営の二つに分かれていくと予測し、緊張が高まっていくことを危惧している。

加えて、民主主義的な国々でも見逃せない側面がある。世界に民主主義を広めようとしてきたアメリカで「自国第一主義」を掲げるトランプ大統領が登場し、トランプ支持者らによる連邦議会乱入事件(2021年)でも明らかになったように民主主義的な力が弱まっている。

このことは、日本にとっても人ごとではない。内向き、排他的な動きは日本を含めて先進各国で広がっており、民主主義がこの先どうなっていくのか、先行きは明るくないのかもしれない。

もうひとつ注目すべき潮流がある。世界は1989年の冷戦終結後、国境の壁を越えて人やモノのやりとりをするグロー

バル経済を推し進めることで暮らしを向上させ、それにより平和な世の中がもたらされるとしてきたが、それもまた大きな試練を迎えている点だ。

ウクライナ戦争後、穀物やエネルギーをめぐる各国の間で争奪戦が激しくなっており、輸入に依存する日本にとってはきわめて厳しい状況だ(日本のエネルギー自給率は1割程度と先進国で最も低い水準)。

実は、元側近によればプーチン大統領には、以前からエネルギーをいわば「武器」として利用する意図があったという。実際、大統領就任1年前の1999年には現在に通じる資源戦略に関する論文を公表し、「膨大な天然資源を持つロシアは先進国の中でも特別な存在だ」と記していた。

もともとエネルギーの世界では資源を「持つ国」が「持たない国」の急所をつかんでいる構造があるわけだが、そのリスクが露わになっている。さらに、ロシアへの経済制裁をめぐる各国の間で足並みがそろわず、世界が分断する状況が生まれている。専門家の中には現在の状況を捉えて「第二次冷戦」と称する人も少なくない。

いま世界は気候変動など地球規模の課題に直面しており、国際的な協調が欠かせないが、そこに暗い影が落とされているのだ。アメリカのサマーズ元財務長官は「経済的な対立が安全保障上の対立につながり、安全保障上の対立が経済的な対立につながる悪循環に陥る可能性がある」と、経済の結びつきにほころびが見える現状への危機感を語る。

世界で進む国同士の分断と、国内の分

断（世論、格差など）……冷戦の終結で世界はひとつにまとまるかに見えたが、分断が加速し不透明さは増している。

一方で、インターネットが社会のインフラになり、戦場の様子が瞬時にSNSを通じて世界に広がり、そのことが世論

や各国の政策に影響するという1980年代には想像できなかった変化も起きている。インターネットはフェイクの情報を拡散させたり排他的な動きを加速させたりすることもあるが、これまでにない形で世界を結びつけるひとつの力にもなっ

ている。

この原稿執筆時点でウクライナ戦争の終結の道は見えていない。戦争の行方はどうなるのか、そして世界の構造はどうなっていくのか。私たちは未来を左右する歴史の転換点のさなかにいるのである。

特別寄稿

特別支援教育の道へと進んで

小林みゆき(旧姓 吉江)
(90回生 辰野中 千葉県立八日市場特別支援学校 校長)



私は高校卒業後、千葉大学教育学部へと進学し、障害児教育について学びました。その後、平成4年に千葉県教育委員会により養護学校（現在の特別支援学校）の教諭に採用され、今年度で33年となります。昨年度、校長に昇進し、112名の教職員と共に、児童生徒160名の自立と社会参加を目指し、保護者や地域の皆様のご協力の下、学校経営に取り組んでいます。

私生活では、就職3年目で結婚し、3人の子どもに恵まれました。百貨店勤務の夫とは生活リズムが異なりましたが、かえってそれが功を奏し、「お互いのできることをする」というスタンスで夫と協力しながら子育てをし、仕事と家庭を両立することが出来ました。私の実家が遠いこと、夫の両親はすでに他界していたことから、保育所をフルに活用し、14年間お世話になりました。夢中で過ごしてきましたが、子どもたちも大きくなり、長女も次女も自分の夢を叶え、社会人と

なりました。長男は今年度大学に入学したところです。子どもたちには様々な経験をし、健康で実り多い人生を歩んでほしいと願うばかりです。

この度、執筆依頼を受け、自分の進路選択とこれまでの歩みを振り返るといふ、貴重な機会を頂きました。全国的に学校の働き方改革の必要性が叫ばれておりますが、私の周りも同様の状況であり、立ち止まって振り返る余裕もなく、常に何かに追いかけるようにして、前へ前へと進んできました。

養護学校の教員を目指そうと思ったのは、高校2年生の頃。それまでは小学校の先生になりたいと考えていました。それは、小学校高学年時、担任の先生が私に自信を持たせてくれ、私はいろいろなことに挑戦するようになったからです。私たちが卒業させた後、その先生は養護学校に異動されました。その数か月後、先生のご自宅に遊びに行く機会があり、養護学校で学ぶ子供たちの話を聞きまし

た。興味深く話を聞いていましたが、その中で先生から質問がありました。「みゆきさんは養護学校の子どもたちとも一緒に遊べますか?」。そのときは「はい」と答えましたが、その真意は理解できませんでした。高校に進み、進路について考えていた時、ふと、その先生の言葉を思い出し、なぜ先生があのような質問を私にしたのか、それが知りたくて、障害児教育について学びたいと思いました。

私がこれまで勤務してきた学校は、知的障害を対象とする学校がほとんどでした。担任時代は、小学校低学年を担当することが多く、目標設定や支援方法を考える上で、就学前の療育機関や母子保健行政、医療機関等との引継ぎはとても重要でした。そこから得た情報によって、子どもを多面的に理解することが出来ます。子どもの見方や支援の仕方を探り、

諏訪の酒 真澄です。



人 自然 時を結ぶ

人を結ぶ — 人が集う和やかな食卓の実現、そのための良質な食中酒造り。
自然を結ぶ — 負荷を最小限にしてより良い自然環境を継承する。
時を結ぶ — 文化の継承。新たな価値の創造。

七号酵母発祥蔵元
宮坂醸造株式会社 〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16
TEL: 0266-52-6161 FAX: 0266-53-4477



真澄ホームページ

保護者に寄り添い、「一緒に考えていきましょう」という姿勢で、保護者に関わってきました。子どもたちは一人ひとり実態が異なるので、支援方法も違います。授業の形態は様々ですから、教材も児童生徒に合わせて担任が手作りすることが多いです。年度初めに実態把握をし、本人や保護者のニーズを踏まえて目標設定をし、手立てを考え、教材を作り、実践する。そして評価し、見直しをする。この繰り返しです。「手立てを変えたら昨日までできなかったことが出来るようになった」。こんなうれしいことはありません。時間も忘れて手作りした教材を授業で使う時のワクワク感、子どもが夢中になって学習に取り組んでくれた時の高揚感、言葉はなくても子どもが「できたよ」と目を輝かせて見つめてくれた時の

達成感、私はこれが特別支援教育の醍醐味だと思っています。そして、「学校で出来るようになった事が家でも出来るようになりました」と保護者から報告を受けた時のなんとも言えない温かな気持ち。それがあったからこそまで続けることが出来たと思います。

校長となり、今はそういった最前線で働く先生方を支え、子どもにとって学びやすく、職員にとって働きやすい学校にするため、学校経営に取り組む立場となりました。特別支援学校では、障害の重度化、多様化が進み、児童生徒数の急増等、様々な問題を抱えています。そんな中、どんなに疲れていても、子どもたちの前では元気に日々の業務をこなしていく職員には感謝の気持ちしかありません。自分の健康、子育てや親の介護など、悩

みや心配事を抱えている職員も多いです。それでも、子どもを前にすると気持ちを切り替え、頑張ってくれます。子どもたちには、先生方を元気にする力があるようです。

我が国がめざす共生社会の実現に向けて、目の前の子どもたちが持てる力を発揮し、自立し社会参加していくための基盤となる、たくましく「生きる力」を育成するのが我々の仕事です。この道に進むきっかけとなった担任の先生の質問の真意は、「『共生社会』について、自分にできることを考え、進めていきなさい」ということであつたように思っています。私の進路選択に大きな影響を与えたのは担任の先生でした。改めて教員の言動が児童生徒に与える影響の大きさをかみしめ、職責の重さを感じております。



同期会
活動紹介
71回生

コロナ禍もひと段落 — 今年も活動再開の年に!!

19年前に当番幹事で多くの仲間が集結して以来、相当回の交流会を持ってきましたが、近時はコロナ禍もあり71回生東京清陵会として特筆できる活動はできていません。

しかしながら、新型コロナウイルスについても一般的な感染症としての段階を迎え、また我々の多くが後期高齢者入りを目前にする中、人生100年時代における生活・生きがいを後押しする意味でも、今後の活動再開活発化を期したいと考えているところです。

そんなこともあり、ここでは取りあえず、東京メンバーも参加している学年全体の活動の一端を紹介したいと思います。

あわせて同期の皆さんには、今後の活動再開を呼びかけます。今年も東京清陵会総会が10月最初の日曜日(10月1日)に予定されていますので、是非総会に参加されますことを!!

●同期会定例懇親会(写真参照)

毎年6月末の清陵同窓会定期総会開催日に合わせて同年会(懇親会)を開

催しています。また、時折これと同時並行して隣接会場において同級会が開かれ、相互交流となることもあります。

●メーリングリストによる交流

約100名が参加。各種行事の案内、各人の近況報告、情報提供、意見表明や談論提起等のコミュニケーションがされています。最近の大きなトピックスとしては、下記の赤羽博士奨学金制度創設に至った意見交換がありました。また、現在の連続テーマは“長生きするため健康特集”(かかりやすい病気とその予防法等)であり、医師である窪田君(8部)が中心に発信しています。

●赤羽博士記念奨学金の創設

同年生の故・赤羽恒夫君のご遺族の意向をもとに、提供された遺産及び同窓生の皆様の寄付をもとに、学校や留学支援団体のAFSと連携し現役清陵生対象の海外留学の基金が創設されました。今年度は清陵生が第1号留学生として海外派遣されたと伺っております。

尚、今後は諸般の事情から、県下の全ての高校生が対象となる見込みです。



6月24日総会後の同年会懇親会

●定例ゴルフ大会

年2回(春、秋)、諏訪地域のゴルフ場において開催されています。今年春も総会の日に開催し、終了後は総会参加者との同年会をもちました。

●BBQパーティ

現在、コロナ禍もあり休止中ですが、毎年夏に有志参加によるBBQパーティをメンバーの別荘(茅野)で行っています。できれば近いうちに再開したいものです(本誌が発行される頃には、開催されているといいのですが……)。

(71回生 北澤一保)



徹底
取材

清陵会館を ご存じですか？

諏訪清陵高校現校舎の東南に隣接する清陵会館（同窓会館）をご存じですか？ ボロボロ校舎組には少しなじみが薄い同窓会活動の拠点をご案内します。

3代目校舎群（通称新校舎）の東南に隣接して2階建ての清陵会館（同窓会館）があるのはご存じですか？

当番幹事の90回生は2代目校舎（通称ボロボロ校舎）から卒業した最後の学年です。90回生卒業の翌月、昭和62年4月から現在の東および南校舎の供用が開始され、昭和63年3月には新校舎全体が完成、同年10月末にはボロボロ校舎の解体工事が完了しました。

昭和62年12月には清陵会館も完成、以来35年余りにわたり同窓会活動の拠点として使用されています。



清陵会館入り口。ボロボロ校舎と違い土足は厳禁。スリッパに履き替えます。

高校同窓会事務局といえば職員室の並びに一室を間借りして活動するのが一般的と思われます。公立高校同窓会が一棟建ての建造物を拠点として使用しているのは珍しいのではないのでしょうか。90回生以上にとってはなじみが薄く、94回生以下では入学時からあった清陵会館を取材してきましたので紙上報告します。

同窓会館の歴史

始まりは昭和2年に母校創立30周年を記念して建設された同窓会館に遡ります。この建物は昭和20年代前半には学友会、地方会、クラス会などの集会場として利用され、図書室が設けられ生徒の日常学習の場としても使用されていたようです。

昭和25年に2代目校舎の建設が始まると「天守閣」と通称された学友会館が取り壊されたことに伴い、学友会からの要望を受けて同窓会館は昭和31年に2代目学友会館に改築されました。この時の費用約100万円は生徒の寄付などで賄われました。

しかし、この2代目学友会館（初代同窓会館）は、昭和35年と昭和47年の二度にわたる火災と建物の老朽化により取り壊しが決まりますが、火災はたばこの失火が原因と疑われ、再建には

地域住民の理解を得ることができず、同窓会館の歴史は一旦幕を下ろします。

時は流れ昭和57年、3代目校舎の建設が決定すると昭和60年の同窓会総会において改築記念事業として清陵会館（2代目同窓会館）の建設、学校敷地内の植栽、モニュメント3基の建設、三沢文庫の内装及び施設の充実（三沢文庫の建物は県費）などを柱とする大綱が決定されました。

事業資金として同窓会員および地元企業から募金を行い、目標1億4000万円に対し2億800万円が集まり、昭和62年12月に清陵会館は完成しました。（「清陵八十年史」「写真でつづる清陵の百年」より）

清陵会館探訪

私は令和5年4月26日に清陵会館を訪れました。ボロボロ校舎世代にとっては裏口側、現在の正門側となる格技室と駐輪場（テニスコート跡）の間を抜けて傾斜路を上り、校舎群が並ぶ台地の入り口に清陵会館は建っています。

土地は県有地で同窓会が建築した建物を長野県に寄付し、使用料を払い利用しているそうです（固定資産税などの点からこの形が同窓会にとって望ましいとのこと）。

1階には食堂、厨房、職員室、倉庫、



1階食堂。小会議向け。右奥に厨房が設置されています。

トイレ、男女別の浴室が設置され、2階への階段踊り場に平林舟鶴氏(37回生)揮毫の「自反而縮雖千萬人吾往矣」額が掲げられています。

2階には和室(50畳)、同窓会事務室が置かれています。1階食堂は同窓会3役会議、常任幹事会、当番幹事引継ぎなど比較的小規模な会議に使用されるほか、野球部などが休日練習を行う際に厨房で炊飯し、昼食に利用しています。

厨房には米袋や鍋が置かれ、冷蔵庫の中はスポーツドリンクで満杯と大学運動部の合宿所を思わせる様子でした。厨房は清陵祭模擬喫茶の調理場として利用されることもあるようです。

浴室はボロボロ校舎時代の体育館にあった温泉を引き継いでいるものですが、温泉料金などの点から使用不能となっているとのことでした。

2階の和室は学年幹事会など大規模会議のほか生徒合宿時の寝室、かるた部の活動場所としても利用され、寝具も20組ほどあるので申請すれば同期会などで宿泊することができるそうです(アルコールを伴う飲食も可。ただし準備、



大学運動部寮のような厨房。巨大な炊飯釜と大量の米が置いてありました。

後片付けを考えると料理店やホテルを使用したほうが合理的なようです)。

数年前に表替えをした畳が青々としてい草の香りがさわやかでした。同窓会事務室は比較的広めに作られており、清陵会館建設以前と比べ資料管理、会議運営の点で利点があるとのことでした。しかし年々資料は増える一方なためDX(デジタルトランスフォーメーション)による資料整理が必要なようです。

訪問日が冷たい雨が降る天候だったためか、築35年を経た会館は手入れがされていますが、照明がやや暗く、壁紙やカーテンは黄ばみやシミが目立つなど、老朽化は隠せず、高校生や若い世代に積極的に使ってもらうには、そろそろリフォームが必要と思われました。

設備の説明を受けながら「これは試胆会や追い出しコンパ会場にぴったりだけど学校の敷地内で試胆会はだめか。そもそも地方会も廃止されているし(平成25年2月の学友会総会で議決、同年3月末地方会は廃止された)」などと考えてしまいました。

諏訪はフォッサマグナの直上に位置し災害への備えが欠かせません。諏訪



踊り場に掲げられた茅野の書家、平林舟鶴氏(37回生)の書。



2階和室(50畳)。会議のほか生徒合宿時の寝室としても利用されています。



2階和室。来年度に机と椅子での会議も可能となる改修が予定されています。

清陵高校は、諏訪市の広域避難所に指定されています。非常食、飲料水、段ボールベッド、発電機、燃料など備蓄し、期限間近の食料などは清陵祭や同窓会総会時に販売し新しいものと入れ替えるなど生徒や地域住民の避難生活に備えてはどうか? また卒業から1~2年程度の同窓生を招いて「ホームカミングデー」などを開催し同窓会活動に若い人を勧誘するのはどうか? などと考えながら訪問を終了し、かつての正門から正願寺前、諏訪二葉高校への分かれ道、旧甲州街道から上諏訪駅まで歩き、家路につきました。

同窓会では令和1年から毎年7月初旬の清陵祭に「同窓会の部屋」を出展しています。久しぶりに母校を訪れた際には清陵会館ものぞいてみてはいかがでしょうか。

今回の訪問取材にあたり案内してくださった矢澤博様(同窓会事務局長、69回生)、資料を準備していただいた高木保夫様(同窓会事務局補佐、79回生)に深謝いたします。

(取材・文/古村雅利 90回生)



2022年度 東京清陵会総会報告

新型コロナウイルス感染症の第7波がやや落ち着いた、秋晴れの10月2日、「2022年度東京清陵会総会」を無事開催しました。今回は、東京・市ヶ谷の会場とオンラインのハイブリッド開催となりました。会場に64名の参加をいただくとともに、昨年に引き続きオンラインでは約50名と、国内外から参加があったのは、非常に喜ばしいことでした。

今回のテーマは、「ひととはなにか」。コロナ禍で、かつ世界情勢が目まぐるしく変化する中で、現状を見つめ直し、未来への展望を切り開くにはどうすべきかを考えました。



内容もりだくさんの ハイブリッド開催

講演会では、国内外で活躍する89回生の3名がライフワークとする分野について熱い思いを語っていただきました。それぞれのテーマは、京都大学ヒト行動進化研究センター教授の今井啓雄さんが「多様な遺伝子を持つ日本人」、丸紅アセアン会社調査部長の金子哲哉さんが「混迷の時代に求められる日本の役割とは?」、ダンサー・演出家・小説家の飯田茂実さんが「生活習慣みくさのみたから」でした。

音楽演奏の上映も行いました。まず、声楽家の橋爪ゆかさん(89回生)と、ピアニストの白石明子さん(89回生)による演奏は清陵の音楽室にて録画したもので、在校時を懐かしく思う方も多かったのではないのでしょうか。

123回生の5人組ロックバンド「あるくとーふ」からのビデオメッセージとプロモーションビデオ(PV)の上映も盛り上がりました。清陵を卒業後も音楽活動を続けてきた5人の若い力

を実感したひとときでした。

会場ではグループ討論会も実施しました。コロナ対策でアクリル板のパーティション越しでの議論となり、声が聞き取りにくいという難点もありましたが、活発な討論が繰り広げられ、懇親会へと引き継がれました。

今回は初めてのハイブリッド開催で、会場音声の配信など様々な難題に直面しながらも盛会で終わることができたのは当番幹事の頑張りの賜物だと思います。5月からコロナウイルスが季節性インフルエンザと同じ5類感染症になり、日常生活が徐々に戻りつつあります。オンラインの活用など新たな手法をさらに発展していただきながら、今年度も盛会となることを期待しております。(89回生 風間伸介)

第9回 ミドル交流会

令和4年11月26日(土)に90回生の主管で第9回ミドル交流会を新型コロナウイルス感染対策のため3年連続の完全オンラインで開催しました。第1部は90回生の医師による医療講演を行いました。第1席は「糖尿病を識る」(松葉町内科クリニック 古村雅利氏)、第2席では「輝くことは素晴らしきことかな? 脂肪肝でどんな病気?」(東北中央病院 西瀬祥一氏)と題し、ミドル世代にとって気になる生活習慣病を解説しました。

疾患の基本知識や合併症を導入部分とし、食事療法や運動療法といった翌日から実践できる対処法を紹介しました。参加者からは「自分たちでできそうな対処法をわかりやすく説明してもらえた。」と比較的好評を得たと考えています。

第2部では5人程度のグループ交流

「医療講演会」では 翌日から実践できる対処法を紹介

を実施しました。短時間でしたが学年をまたいで高校時代の思い出から今の生活、同窓会の今後などについて自由に討論してもらいました。

参加人数40名程度でしたがミドル世代の95回生以下の参加は99回生が1名のみで今後の大きな課題となりました。ミドル交流会も当初は転職や起業、関連法規などミドル世代にとって人生の

転機といえる話題を提供していましたが、回を重ねるうちにミドル世代の参加が徐々に少なくなり、55歳の当番幹事に前に54歳学年の結束起点、講演会のリハーサルに役割が変化してきました。これまでの9回を総括し、目標達成度の評価、今後の在り方について検討が必要と考えられます。

(90回生 古村雅利)

第10回ミドル交流会(91回生主管)のお知らせ

テーマ 「お金のリテラシーを高め、賢くお金と付き合おう」

開催日時/方法 令和5年12月9日(土)16時より完全オンラインにて開催

金融、税務、社会保険などお金に関わり仕事をしている91回生(藤森裕司、矢澤哲也、太田佳孝)を講師に迎えお金の付き合い方を学びます。

希望者は下記URLから参加登録をお願いします。

<https://forms.gle/b1KaYwLKLdkqJAGS7>

開催数日前に登録されたメールアドレスにZoom IDを配信します。

(91回生 小松文美)



お申し込みは
こちらから

東京清陵会 女子部活動報告

2016年頃から、東京清陵会の女性を中心に、年1、2回程度イベントを開催していた女子部。コロナでの行動制限が続いていた約3年、オンラインでのミーティングが活動の中心となっていました。2022年度は当初よりリアルな活動再開を目指していました。

22年度後半、ようやく世の中も行動制限が緩和され、私たちもリアルイベントを実現することができ、2回ほど企画を実行しました。

<テノールまみれクラシックコンサート>

年が明けた2023年1月14日、渋谷区総合文化センターで行われた「テノールまみれニューイヤーコンサート」鑑賞企画を実施しました。新春の女子会にふさわしく(?) テノール歌手と楽器演奏者含めすべて演者は男性。クラシックの名曲だけでなく、ポピュラーソングやポップスあり、仮装ありという少しくだけたクラシックコンサートでした。久々のリアルイベントに7名の参加を

いただきました。マスク越しの鑑賞ながら、コンサートでは大笑いし、その後近くのお店で会食。

久しぶりに複数人で会って、他愛もない会話を楽しむことが大変嬉しく、改めて戻って来た日常の喜びを実感しました。

<あるくとーふライブ参戦(?)>

東京清陵会の総会時に予告していた同窓生で現役大学生のインディーズバンド「あるくとーふ」ライブへの参加。2月28日開催が決定し、1か月前からの告知開始。女子部の企画でしたが、女性のみに限らず参加を呼びかけたところ、あっという間に参加希望者は25名にも上りました。年齢層も75回生から122回生まで幅広く男女もほぼ半々という構成となり、地元諏訪から参加の方も。後輩バンドへの関心の高さがうかがえました。

下北沢のライブ会場はまさにすし詰め状態。大音量と演奏者の熱気、まだ声出しはできなかったものの応援する観客の揺れる動きが心地よく、ライブを堪能しました。

ライブ後には下北沢の居酒屋にて懇

参加希望の方は...
東京清陵会女子部事務局のメールまたはFacebookを通じて、女子部のFacebook「質素している方のみ可能」にメッセージを送りたい。参加希望の日の夜まで前売りチケット確保します。
tokyoseiryokajoshi@gmail.com
締め切り 2月12日
途中から参加もOK(あるくとーふの出演は20時以降)。ライブ終了後、下北沢特産で短時間観戦できる予定でライブの聖地、下北沢を楽しみましょう!
参加年齢制限なし、性別不問!
ライブを観、ライブしよう!
あるくとーふについては本会報の東京清陵会だよりの記事をご覧ください!
お問い合わせ先>>>
東京清陵会女子部
tokyoseiryokajoshi@gmail.com
(担当: 菅野由紀子、山崎由紀子)

親会を開催。聞けば多くが軽音部やフォークソング部など高校時代にも音楽系の部活をされていた方々で、年代を越えて高校時代の部活のことや、好きな音楽系統の話で大変盛り上がりしました。音楽という軸が世代をつなげ、新しい広がりをもたらしたと感じました。

女子部では、今後も女性中心のイベントだけでなくどなたでも参加できるイベントを企画していきます。テーマは問わず、そこに共感する同窓生が集い、また新しい輪が生まれる。そんな会を続けていきたいと思えます。

イベント告知は東京清陵会のFacebookや女子部のFacebook、勉強会からのお知らせを通していたしますので、ぜひご参加ください。

(88回生 浜美智子)

母校連携 企画

諏訪清陵高校附属中学校 「東京研修旅行」での企業訪問受け入れ

東京清陵会のバックアップによる企業訪問は、本校でしかできない貴重な体験となっています。各企業の中核部で仕事を担っている清陵OBの方々に、普段見ることができない仕事の裏側やそこで働く方々の『働くこと』に対する熱意を見せていただき、中学生へのアドバイスなども話していただきました。職種はさまざまでしたが、それぞれに『本物にふれる』という経験をさせていただき、清陵中生にとって、他には代えることのできない貴重な体験となりました。

またこの度お世話になった学年は入学以来ずっとコロナの影響を受けている学年ですので、どうしても校外での活動を十分に行えない部分がありました。

そのような中で今回ご協力いただいたそれぞれの企業において、2019年までと同じように、「中学生の学びを全力でサポートしよう」と間口を広くして受け入れていただきました。そういった企業側の姿勢に、生徒も学校では学ぶことができない多くのことを学び、刺激を受けたようです。特に実際に働いている方からの重みのある言葉に、生徒達は仕事に対する責任感や熱意を感じ、将来目指す姿や、今の自分に必要なことについて考えるきっかけとなりました。今後もぜひ、中学生の学びをより深めるためにご協力をいただきますよう、よろしくお願ひします。このたびは、誠にありがとうございました。(中学校教諭 北澤健一)

研修旅行 企業見学一覧

企業名	東京清陵会 OB・OG
電通	金子武司(89回)
世田谷自然食品	河西英治(75回)
東京都庁(立川防災施設)	大澤洋一(84回)
税理士法人フェアコンサルティング	細田 明(86回)
KPMGあざさ監査法人	間宮 薫(107回)
ブリヂストン	原 秀男(73回)
古河電気工業	川村知生(105回)
エスエス製薬	伏見升成(83回)
岩波書店	故 寺島亮三氏(57回)
清水建設	竹内雅彦(82回)
丸紅	金子哲哉(89回)
KDDI	猪俣美智(90回)
日立製作所	眞田明美(84回)
JAMSTEC(海洋研究開発機構)	小平秀一(85回)

*敬称略

東京清陵会

Information

東京清陵会の会員みなさんに様々な同窓生の情報をお届けします。



Cafe & sweets

「小林楽器店」の一部を改装。
カフェ「カフィス コパ」がオープン

上諏訪駅近く、三井住友銀行の隣にある、「小林楽器店」=店主の小林健治さん(88回生)。この店舗の一部を改装、カフェ「カフィス コパ」がオープン。「昔のように上諏訪の駅前に人々が気楽に集まれる場所をつくりたい」という思いを実現させたのは、小林さんの諏訪清陵高校時代の同級生、五味武さん(88回生)と理恵さん(旧姓 長崎・88回生)夫妻。カフェのほか、ジェラートやパフェ、焼き菓子などのスイーツメニューも豊富です。営業時間/13:00~20:00 定休日:月・火・水 長野県諏訪市諏訪1-5-24 ☎090-2644-4501



Cafe & sweets

パティシエによる手作り
スイーツが魅力のお家カフェ。
「中央通カフェ」オープン!

37年余りの会社勤めを終え定年を迎えるにあたり、「人が集まる場所を作りたい」という思いから、2023年1月6日に岡谷市中央通りに「中央通カフェ」をオープンしたのは、小口理子さん(84回生)。カウンター中心の18席の小さなカフェですが、パティシエによる手作りスイーツが魅力のお家カフェ。メニューもナポリタンやドリア、サンドイッチなど豊富。また2階のイベントスペースでは、シンガーソングライターのライブやアロマ講座、ヨガなど様々なイベントを実施しています。営業時間11:00~16:00 定休日/水・木 ☎090-3355-3630



GOURMET

清陵同窓生も多く利用。
「神田 木花」が
リニューアルオープン!

「あたり前においしいをあたり前に」届けたい。目指すのは最上の「あたり前」がコンセプトのお店。女将の若松弓美子さんは、諏訪二葉高校OG(父は諏訪清陵高校OB)。この度、店舗を全面改装、7月12日にリニューアルオープン。さらに和風モダンの落ち着いた居心地のいい空間となりました。下諏訪のお酒 御湖鶴、信州山賊焼き、信州蕎麦などのメニューもおすすめ。お得なご宴会コース、飲み放題コースもあります。東京都千代田区内神田3-5-3 矢萩第二ビル1F 営業時間/11:30~14:00、17:00~22:00 定休日/土・日・祝日 ☎03-3254-4533



GOURMET

旬肴 ふぐ・すっぽん
「ふく堀田」

堀田五千さん(75回生)は、服部栄養専門学校を卒業後、浅草のふぐ専門店などで修業、その後、ふぐ料理の名店「ふぐ料理 新宿三浦」で36年間板長を勤めました。閉店に伴い、2019年新宿御苑に当店をオープン。下関から直送の天然ふぐを使用した「ふぐコース」がおすすめ。ふぐには丈夫な骨に欠かせないカルシウムやビタミンD、シミやしわを防ぐコラーゲンも豊富だそうです。なお、「東京清陵会だより」持参の方には、生ビール1杯プレゼント! 東京都新宿区新宿1-32-11 アール新宿御苑101 営業時間/11時~14時、17時~23時(要予約) ☎03-6384-1417



Book

小説・随筆・研究など多岐にわたる
文芸作を掲載する『窓』第11号刊行

『窓』(年1回発行)は、新田次郎の諏訪における世話役を務めた故・市川一雄さん(56回生)が「広く文藝の試みをする場」として創刊。現在、三井夏海さん(79回生)が編集発行しています。初期の執筆陣には、宮坂水穂さん(31回生)や片野満さん(56回生)などが名を連ね、現在でも諏訪清陵高校の同窓生が多くいます。11号では、NHKの番組でも取り上げられた諏訪大社の「神仏習合」についての考察や諏訪の「花柳界」のドキュメントなど、興味深い文章が掲載されています。購読・寄稿希望の方は、三井さん(090-8588-0543 mn.gakushin@gamma.ocn.ne.jp)まで。



Book

松崎 寛さん初の単行本。
「静かな夏」を出版

松崎寛さん(80回生・著者名は松永 譲)は、大学卒業後、諏訪市役所入庁。評論などを書き続け、1999年「天平の精神」で長野文学賞評論部門賞。今回の「静かな夏」(鳥影社)が初めての出版になります。表題作は、戦前から戦後を生きた父と、戦後70~80年代に青春時代を生きた主人公が、介護の現実の中で、その関係を見つめ直した作品。また「エヴァモア」は、受験戦争の中で己を見失った青年が、勉強や恋愛を通して自分自身を再生していくという物語。「息子たちへの手紙」を合わせた著者渾身の三部作になっています。同世代には共感する所も多いはず。



会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

2022年度会費納入者ご芳名(2022年4月1日~2023年5月31日までに入金があった方)(敬称略)

65回	金子 充宏	69回	比田井 昌英	73回	マディーン啓子	80回	宇津木 マリ	89回	大野 美江
65回	小林 俊徳	69回	比田井 和子	73回	伊藤 俊巻	80回	工藤 千秋	89回	江島 ゆり子
65回	小松 功	69回	功刀 正行	73回	和泉 桂子	80回	上原 成司	89回	城取 重行
65回	岩波 武功	69回	柳平 三雄	73回	細田 俊彰	80回	脇坂 守一	89回	落澤 史仁
65回	山岡 建夫	69回	茅野 泰幸	73回	原 大	80回	米澤 あこ	89回	佐藤 吉英
65回	河西 靖浩	69回	牛山 隆夫	73回	五味 信治	81回	河合 俊嗣	89回	金子 哲哉
65回	関 紀雄	69回	玉置 守好	73回	三浦 一洋	81回	浜 徹	89回	宮坂 賢一
65回	松本 禎之	69回	宮坂 秀一	73回	熊谷 靖樹	81回	加藤 博之	89回	両角 はるか
65回	春日 芳夫	69回	濱 照彦	74回	土屋 彰男	81回	小澤 弘	89回	相川 京子
65回	伊東 郁夫	70回	竹村 善隆	74回	北原 嘉泰	81回	松原 雅子	89回	飯島 誠
66回	河合 三彦	70回	平山 哲三	74回	窪田 修	81回	三枝 貴	89回	吉中 宏子
66回	原 昭治	70回	石田 和夫	74回	金井 良一	81回	河合 俊明	89回	石松 由絵子
66回	降幡 賢一	70回	米澤 英樹	74回	小口 寿彦	81回	矢島 岐	89回	小口 聖
66回	宮島 忠之	70回	清水 英俊	74回	五味 克成	82回	青木 基浩	89回	小口 稔
66回	宮坂 典子	70回	喜内 静美	74回	白鳥 清	82回	有賀 進	89回	風間 伸介
66回	五味 洋	70回	中村 典男	75回	伊東 晴俊	82回	篠原 誠一	89回	金子 武司
66回	長岡 敏行	70回	唐木 康正	75回	柳沢 治通	82回	北原 譲	89回	川住 詠美
66回	林 央	70回	久保田 功一	75回	有賀 一温	82回	清水 正己	89回	細田 健司
66回	武居 秀夫	70回	齊藤 万比古	75回	有賀 文彦	82回	小野 隆吾	89回	村上 かおる
66回	丸茂 雅弘	70回	藤森 行雄	75回	小平 聡	82回	竹内 雅彦	89回	矢頭 智夫
67回	樋口 兼久	70回	一瀬 益夫	75回	安木 良術	82回	金子 勝彦	89回	金子 美智子
67回	五味 巻二	70回	高岸 洋夫	75回	今井 武	82回	高橋 茂樹	90回	古村 雅利
67回	吉澤 修平	70回	岩垂 進	75回	北澤 守一	83回	倉田 重子	90回	新井 直子
67回	小平 攻	70回	安木 良博	75回	宮下 和彦	83回	松崎 任宏	90回	岡島 祐子
67回	池上 志奈子	70回	小口 隆夫	75回	伊藤 せい子	83回	小松 裕	90回	桑澤 高
67回	ヤザキ ノブトシ	70回	土橋 務	76回	中島 真一	83回	森 政宏	90回	中島 啓子
67回	名取 省三	70回	垣内 国光	76回	金子 次男	83回	内川 昇	90回	藤江 美智
67回	宇佐美 貴久	70回	功刀 明美	76回	田沼 唯士	83回	両角 信彦	90回	林 誠二
67回	守矢 早苗	70回	小林 金好	76回	森田 益弘	83回	伏見 升成	90回	小林 政成
67回	宮坂 榮一	71回	三橋 ひさ子	76回	北澤 道子	84回	赤羽 俊昭	91回	藤森 裕司
67回	平林 千義	71回	磯野 康子	76回	石井 和夫	84回	飯田 秀機	91回	小松 文美
67回	小松 晃	71回	増澤 博和	76回	田中 修	84回	小口 高	92回	植松 かおり
67回	丸茂 義典	71回	伊藤 洋一	76回	関屋 孝行	84回	小海 健治	92回	西村 和訓
67回	増沢 和夫	71回	森 史朗	77回	金子 恵子	84回	島崎 義都	94回	原 豊
67回	岩間 大和子	71回	森 さと子	77回	小口 正行	84回	清水 信次	94回	原 実
67回	樋口 善一	71回	北澤 一保	77回	田添 珠美	84回	瀬戸 武	96回	濱 真由美
67回	細川 正行	72回	御子柴 均	77回	春日 敏彦	85回	小平 秀一	96回	熊谷 和則
68回	原田 盛夫	72回	桑沢 元孝	77回	田中 守	86回	大久保 淳一	97回	川崎 剛
68回	宮坂 静	72回	新井 滋平	77回	渡辺 恵祐	86回	武田 正利	99回	荒木 健太郎
68回	藤森 照信	72回	笠原 勇二	78回	小松 一俊	86回	林 聡一	108回	佐藤 圭一
68回	藤森 博彰	72回	小口 邦雄	78回	宮下 紀夫	86回	細田 明		
69回	藤森 光彦	72回	白鳥 洋治	78回	両角 寛文	86回	青木 裕子		
69回	山田 計夫	72回	林 健康	78回	東城 清秀	87回	浜野 崇		
69回	武村 光男	72回	原田 文登	78回	石埜 穂高	87回	北原 希至子		
69回	川村 美枝子	72回	会田 真菜	79回	原田 健太郎	87回	荻原 吉康		
69回	小尾 岬	72回	矢崎 俊二	79回	五味 稔典	88回	増澤 浩一		
69回	林 史章	72回	市村 敏夫	79回	飯田 良	88回	鮎澤 茂		
69回	柳平 克利	73回	山田 雄一	79回	三井 夏海	88回	高島 由季子		
69回	真野 恒夫	73回	両角 誠	79回	八嶋 美保	88回	村山 光義		
69回	中村 正治	73回	原 秀男	79回	大平 普子	88回	佐藤 美智子		
69回	米山 城治	73回	笠原 正英	79回	油井 秀雄	88回	矢嶋 肇		
69回	吉川 仁	73回	浅川 辰司	79回	小平 茂雄	88回	楠見 春美		
69回	渡辺 泰弘	73回	窪田 敏	80回	矢島 茂人	88回	野澤 聡		

2022年度賛助金納入者ご芳名 (2022年4月1日~2023年5月31日までに入金があった方) (敬称略)

38回 北原 文雄	61回 北原 隆	66回 長岡 敏行	73回 山田 雄一	81回 小澤 弘
42回 黒河内 三郎	61回 中村 隆一	66回 林 央	73回 原 秀男	82回 青木 基浩
48回 鈴木 徹	61回 矢崎 豊晴	66回 武居 秀夫	73回 浅川 辰司	82回 篠原 誠一
48回 宮坂 勝郎	62回 滝澤 文教	67回 吉澤 修平	73回 窪田 敏	82回 北原 謙
49回 千野 陽造	62回 河西 巳喜雄	67回 小平 攻	73回 マディーン啓子	82回 小野 隆吾
50回 矢崎 欽司	62回 金子 浩之	67回 矢崎 宣利	73回 伊藤 俊巻	82回 竹内 雅彦
51回 堀内 昭八	62回 藤森 建司	67回 宇佐美 貴久	73回 和泉 桂子	83回 倉田 重子
51回 山崎 壮一	63回 齊藤 亨	67回 守矢 早苗	73回 細田 俊彰	83回 松崎 任宏
51回 林 将雄	63回 亘理 美代子	67回 平林 千義	73回 三浦 一洋	83回 森 政宏
56回 下平 勝幸	63回 両角 實	67回 小松 晃	74回 北原 嘉泰	83回 内川 昇
56回 土橋 平治	63回 藤森 宏一	67回 丸茂 義典	74回 小口 寿彦	83回 伏見 升成
56回 渡部 清	63回 小池 博人	68回 宮坂 静	74回 五味 克成	84回 赤羽 俊昭
56回 土橋 平太郎	63回 守屋 憲一	68回 藤森 照信	75回 有賀 一温	84回 小海 健治
56回 矢島 毅	63回 米山 迪男	69回 武村 光男	75回 安木 良術	84回 瀬戸 武
56回 武居 富夫	63回 倉本 實	69回 林 史章	76回 金子 次男	85回 小平 秀一
57回 今井 恒夫	64回 横内 稔	69回 比田井 昌英	76回 森田 益弘	86回 大久保 淳一
58回 茅野 充男	64回 小川 由英	69回 比田井 和子	76回 北澤 道子	88回 楠見 春美
59回 宮川 良一	64回 祖父江 宏三	69回 功刀 正行	76回 石井 和夫	88回 野澤 聡
59回 長田 敏	64回 花岡 忠史	70回 平山 哲三	76回 関屋 孝行	89回 大野 美江
59回 小松 守	64回 篠原 八耳	70回 米澤 英樹	77回 金子 恵子	89回 敦賀 不二佳
59回 金子 道子	64回 新村 恩	70回 喜内 静美	77回 田添 珠美	89回 佐藤 吉英
60回 小松 寛之	64回 小林 守夫	70回 久保田 功一	77回 春日 敏彦	89回 金子 哲哉
60回 小川 浩史	64回 内田 良子	70回 藤森 行雄	77回 渡辺 恵祐	89回 岩原 直子
60回 原田 研一	64回 武井 省吾	70回 一瀬 益夫	79回 飯田 良	89回 宮坂 賢一
60回 高木 祥勝	65回 金子 充宏	70回 安木 良博	79回 大平 普子	89回 両角 はるか
61回 有賀 嘉信	65回 小林 俊徳	70回 土橋 務	79回 油井 秀雄	89回 金子 美智子
61回 川村 昌平	65回 伊東 郁夫	71回 磯野 康子	79回 小平 茂雄	90回 古村 雅利
61回 佐伯 三朗	66回 河合 三彦	71回 増澤 博和	80回 矢島 茂人	91回 藤森 裕司
61回 寺島 健司	66回 降幡 賢一	72回 林 健康	80回 工藤 千秋	94回 原 豊
61回 坂本 勇喜	66回 宮島 忠之	72回 会田 真菜	80回 上原 成司	
61回 早川 次彦	66回 五味 洋	72回 市村 敏夫	80回 米澤 あこ	

事務局からの連絡

1. DX(デジタル・トランスフォーメーション)対応を進めます

コロナの5類移行で、世の中のコミュニケーションは対面に戻りつつありますが、並行してデジタルの利便性も加速しています。東京清陵会ではリアル・対面の良さは尊重しつつ、デジタルの利便性を勘案してSNSの活用を拡大しています。ホームページ(HP)以外に、Facebookの活用も本格化しており、LINEのグループも増えています。DX委員会を設置して、すぐにやれることは着手し、予算手当を要するものも検討していきます。この分野に詳しい方・関心ある方のDX委員会への参加お待ちしております。

2. 「東京清陵会だより」の位置づけと送付方法変更について

コロナでリアル活動ができない中、会報を主たるコミュニケーションツールとして、ページを増やしましたが、DXの時代を迎え、情報提供は会報主体から、HPやSNSなどに移行します。デジタル媒体の情報伝達を増やす一方で、紙媒体はコンパクトにして、当番幹事他の負担と環境負荷を軽減します。また会報の製作印刷配送コストは、80万円程度と総会以外の年度予算の3分の2を占めます。そのコストを限られた300人による年会費、賛助金で賄い、3,000人の会員にお届けする不均衡な状況となっています。会報は次年度からHPで閲覧いただくことを基本としたいと考えています。これまで通り、紙での配送を希望される方は、恐縮ですが、年会費または賛助金によるご協力をお願いいたします。

3. 同窓会の基本単位は学年同期会です。学年幹事の皆様宜しくお願いします

おかげさまで大半の学年では学年幹事を選出、それぞれの学年内の連絡役も担っていただいておりますが、残念ながら、総会・幹事会への出席、年会費納入などが見られない方も多いです。首都圏在住同窓生は5,000人を超えています。所在把握者(会報が届く方)は半分強で、半分弱は不明・未登録です。自身の参加・納入とともに、場合によっては適任との交代(後任選任)、同期の登録、行事参加を呼び掛けていただければと思います。

4. 次世代ワーキンググループがスタートしています

2013年度からスタートした活性化ワーキンググループも主たるメンバー(82・83・84回生)が還暦を迎えることから役目を終え、新たな発想で運営に提言いただく、次世代ワーキンググループがスタートしています。86・87・88・89・90回生にコアを担っていただきますが、若い世代の方で、我はと思う方はぜひ参画ください。

★1、3、4いずれも事務局アドレス tokyoseiryokai2017@gmail.com

に氏名・回生・エントリーする役割、アドレス・携帯電話番号を記載してメールをお送りください。お待ちしております。

■同封ハガキのアンケートにご協力ください。

1. 会報の送付方法。
2. 関心ある活動への登録、活動の際はメール等でご案内します。
3. DXに向けて、メールアドレス登録をお願いします。

東京清陵会の現状 データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2023年5月末現在)。

1. 東京清陵会会員の定義 (1) 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申し出者を除く)。(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。 2. 会員現勢 総数2,669名(住所不明者1,416名を除く) (1) 都県別会員数 東京都1,224名、神奈川県547名、千葉県330名、埼玉県324名、茨城県54名、群馬県21名、栃木県21名、その他148名 (2) 年次別会員数(下表) (3) 年次別会費納入者数(別表)

別表 年次別会員数と会費納入状況(2023年3月31日現在)

回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費
~38	7	28	35	1	61	66	14	80	9	82	51	25	76	9	103	2	5	7	0
39	1	3	4	0	62	77	10	87	3	83	69	34	103	7	104	0	2	2	0
40	1	5	6	0	63	82	12	94	8	84	51	27	78	7	105	1	0	1	0
41	3	9	12	0	64	63	15	78	9	85	48	43	91	1	106	2	6	8	0
42	6	7	13	1	65	65	15	80	10	86	44	37	81	4	107	1	0	1	0
43	4	2	6	0	66	65	23	88	10	87	32	33	65	3	108	2	12	14	1
44	10	9	19	0	67	84	16	100	17	88	29	48	77	8	109	2	12	14	0
45	5	7	12	0	68	60	30	90	4	89	57	37	94	23	110	1	14	15	0
46	1	12	13	0	69	92	19	111	21	90	63	31	94	8	111	2	4	6	0
47	15	6	21	0	70	84	26	110	20	91	22	40	62	2	112	2	1	3	0
48	29	7	36	2	71	64	29	93	7	92	21	48	69	2	113	10	4	14	0
49	41	6	47	1	72	46	22	68	11	93	16	32	48	0	114	3	4	7	0
50	28	16	44	1	73	70	20	90	15	94	22	22	44	2	115	7	2	9	0
51	44	25	69	3	74	61	29	90	7	95	12	31	43	0	116	13	3	16	0
52	52	15	67	0	75	54	21	75	10	96	13	39	52	2	117	5	2	7	0
55	16	2	18	0	76	55	22	77	8	97	13	23	36	1	118	12	14	26	0
56	52	9	61	6	77	54	24	78	6	98	5	33	38	0	119	15	6	21	0
57	75	16	91	1	78	60	40	100	5	99	9	12	21	1	120	11	6	17	0
58	55	14	69	1	79	59	18	77	8	100	6	19	25	0	合計	2696	1416	4112	320
59	75	12	87	4	80	70	12	82	6	101	2	12	14	0					
60	75	27	102	4	81	66	19	85	8	102	1	5	6	0					

注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
 2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
 3) 会費:前会計期(2022.4~2023.5)会費あるいは賛助金納入者の人数
 会費免除会員(~63回生、および119回生~)の人数 1,078名

収支計算書(案) 自2022年4月1日~至2023年3月31日 (単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異 (予算の方が)
1 会費	2,160,000	1,617,000	543,000
(1) 総会会費(開催63名)	960,000	494,000	466,000
(2) 会員年会費(251名)	470,000	502,000	△ 32,000
(3) 賛助金会費(152名)	730,000	621,000	109,000
2 諸収入	51,200	170,093	△ 118,893
(1) 寄付金	0	50,000	△ 50,000
(2) 預金利子	1,200	93	1,107
(3) 広告料	50,000	120,000	△ 70,000
当期収入合計(A)	2,211,200	1,787,093	△ 424,107
前期繰越	8,049,548	8,049,548	0
収入合計(B)	10,260,748	9,836,641	424,107

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費			
(1) 総会費用(開催)	1,240,000	719,897	520,103
(2) 会議費	60,000	0	60,000
(3) 諸会費	60,000	43,000	17,000
(4) 印刷・通信費	160,000	130,466	29,534
(5) 事務雑費	20,000	12,320	7,680
(6) 会報費	922,000	903,187	18,813
(7) 清陵勉強会	30,000	30,000	0
(8) HP運営費	50,000	19,220	30,780
(9) 予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計(C)	2,572,000	1,858,090	713,910
当期収支差額(A)-(C)	△ 360,800	△ 70,997	△ 289,803
次期繰越(B)-(C)	7,688,748	7,978,551	△ 289,803

寄付金:本部より支部活動助成金として50,000円

貸借対照表(案) 2023年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
流動資産		
現金	0	
普通預金(三菱UFJ)	343,294	
定期預金(三菱UFJ)	5,046,836	
郵便振替口座(会費・賛助金)	2,588,421	
流動資産合計		7,978,551
資産合計		7,978,551
II 負債の部		
流動負債		
前受金	0	
流動負債合計		0
負債合計		0
正味財産		7,978,551
(うち当期正味財産増加額)		(△ 70,997)
負債及び正味財産合計		7,978,551

以上監査の結果、正確なものとして認めます。

令和5年5月20日 監査幹事 青木基浩 ㊞

2023年度収支予算(案) 自2023年4月1日~至2024年3月31日(単位:円)

支出の部

科目	金額
総会費用	900,000
会議費	60,000
諸会費	140,000
印刷・通信費	160,000
事務雑費	20,000
会報費	620,000
清陵勉強会	30,000
HP運営費	50,000
予備費	30,000
小計	2,010,000
次期繰越	7,859,751
合計	9,869,751

収入の部

科目	金額
総会会費	700,000
会員年会費	510,000
賛助金会費	630,000
寄付金	0
預金利子	1,200
広告料	50,000
小計	1,891,200
前期繰越	7,978,551
合計	9,869,751

(注)2023年度予算の収支差額は、118,800円の欠損金となります。

2022年度 事業報告

2022

- 4.19 第1回事務局会議 Zoom開催
- 4.26 第189回清陵勉強会 Zoom開催 講師:石埜三千穂(86回生)
- 5.24 常任幹事会 Zoom開催
- 6.28 第190回清陵勉強会 Zoom開催 講師:平島安人(78回生)
- 6.29 学年幹事会 Zoom開催
- 7.19 学年幹事連絡会 Zoom開催
- 8.15 会報「東京清陵会だより」第33号発行 発送3000部
- 8.23 第191回清陵勉強会 Zoom開催 講師:宮坂宥憲(106回生)
- 10.2 第56回定期総会 議事のみ会報での書面開催し、議案は可決
- 10.15 第33回東京清陵会ゴルフコンペ(紫カントリークラブ あやめ36 東)参加者16名
- 10.25 第192回清陵勉強会 Zoom開催 講師:小池和幸(72回生)
- 11.26 第9回ミドル交流会(開催幹事90回生 Zoom開催)
- 12.1 南信同窓連忘年会(オペラシティ東天紅 ソナーレA 東京清陵会から9名出席)
- 12.11 第2回事務局会議 Zoom開催
- 12.20 第193回清陵勉強会 Zoom開催 講師:吉川仁(69回生)

2023

- 1.14 女子部イベント コンサート鑑賞
(渋谷区総合文化センター大和田伝承ホール 参加7名)
- 2.4 東京同窓連新年懇親会(アルカディア市ヶ谷 東京清陵会から8名出席)
- 2.28 第194回清陵勉強会 Zoom開催 講師:村田和広(87回生)
女子部イベント ライブ演奏会鑑賞(下北沢レググ 参加25名)

2023年度 事業計画

1. 第57回総会・交流会 10月1日(日曜)アルカディア市ヶ谷およびZoom開催
当番幹事90回生
2. 会報「東京清陵会だより」第34号の発行 8月上旬
3. 事務局会議(4、11月、南部労政会館およびZoom開催)
4. 常任幹事会(5月) Zoom開催・学年幹事会(7月)南部労政会館およびZoom開催
5. 第8回働くことを考える若手の会の開催
6. 第10回ミドル交流会の開催
7. 女子部各種イベントの開催
8. 新卒歓迎・学生交流会
9. 清陵勉強会の開催(原則偶数月の第4火曜日)
10. 事務局・委員会制度の整備 次世代ワーキンググループ、DX委員会の設置と推進
11. 会員情報管理の高度化・効率化
12. 東京清陵会ホームページの拡充、SNS利用の拡大
13. 懇親ゴルフ会の開催
14. 本部同窓会・南信同窓連・東京同窓連活動への参加
15. 母校・生徒との連携・交流の拡充(講師派遣・職場見学協力・清陵祭への参加等)
16. その他必要とする事業

※コロナウイルス感染状況で開催できない場合もあります。ホームページでお知らせします。

編集後記

「東京清陵会だより」第34号をお届けします。今号では当番学年幹事が有能な同期たちを十分に機能させることができず、事務局の先輩方の強力な支援のもと作成されました。そんな中、企画に参加あるいは寄稿作成の労を取ってくれた同期に感謝します。一生に一度の機会を生かすことの難しさを痛感した数年間でした。後輩諸氏におかれては日頃から同期ネットワークを活発化させて当番幹事活動を楽しまれることを願ってやみません。

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	回	逝去年月日
黒河内 治郎	39	2020/10/28
浜 亥三男	41	2022/11/28
片桐 好	42	2021/11/2
福島 一郎	42	2022/7/17
岩本 友一	43	2022/11/
土田 武雄	44	2022/2/25
高木 満	45	2021/1/4
山田 達也	45	2022/2/21
山田 道弘	45	2021/10/15
小泉 和明	46	2022/6/13
青木 枝朗	47	2021/3/3
堀内 辰重	47	2022/4/11
荻原 浩二	48	2019/12/
嶋口 信	48	2019/12/31
藤中 章	48	2019/6/6
田原 光人	48	2022/3/
林 厚彦	49	2021/7/23
若尾 法昭	49	不明
井手 千尋	50	2022/1/5
今井 義博	50	2022/7/28
岩波 貞夫	50	2020/10/8
北原 榮二	50	2021/2/4
進藤 昭	50	2021/12/
永田 博敏	50	2021/8/10
林 壮司	50	2019//
松原 和男	50	2022/8/28
宮坂 義彦	50	2020/8/29
矢崎 欽司	50	2022/12/24
金子 真之	51	2013/3/31
吉川 清	51	不明
進藤 一夫	51	2021/11/8
平出 碩朗	51	2022/3/31
守矢 公平	51	2016/12/31
両角 正三	51	2022//
乾 雄成	52	2022/4/11
今井 基夫	52	2020/11/30
岩波 邦治	56	2020/6/28
笠嶋 厚嘉	56	2020/9/12
土田 博敏	56	不明
原田 廣一	56	2020/7/27
増澤 孟彦	56	2020/11/16
松見 佳樹	56	2021/9/29
丸山 武博	56	2022/1/18
三澤 敏彦	56	2021/11/18
矢ヶ崎 孫次	56	2022/7/9
永由 直登	57	2022/5/25
薩摩林 貞美	57	2022/1/25
広瀬 哲雄	57	2022/2/
岩下 幸正	58	2006//
宮澤 立郎	58	2022/5/21
山口 宗彦	58	2020/4/1
小池 弘明	59	2022/2/10
古村 哲也	60	2020/2/17
中村 貞直	60	2022/5/15
宮島 伸方	60	2020/9/17
落合 清子	62	2018/8/
小平 清	64	2021//
小金澤 碩城	65	2022/4/16
武田 英太郎	67	2023/2/9
豊島 伸一	67	2023/3/5
宮坂 英敏	71	2022/4/8

●事務局にご連絡をいただいた方(本部会報第49号含む)を掲載。

第35回東京清陵会ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

- 日時:10月15日(日) 8時20分集合 9時スタート
- 場所:紫カントリークラブ あやめ36 東コース
(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田駅」下車。タクシーで約10分)
- プレー代:約20,000円(食事付) 会費:3,000円
参加希望の方は、清水(84回生) shimizu@palam.jp まで。
住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください。
- 幹事=青木基浩(82回生)、小海健治(84回生)、高橋真由美(91回生)

「東京清陵会」
ゴルフ同好会

